

# No.6 ハンドボール

Japan  
Handball  
Association



- 社会人
- 学生
- 高専
- 高体連
- 中体連
- 小学生
- 県協会

- 全国大会
- ブロック大会
- 都道府県大会
- 地区大会

- 男子
- 女子

試合番号 山鹿-男47

年月日 2019年8月9日(金)  
大会名 令和元年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会

## 公 式 記 録 用 紙

A	県立香川中央高等学校										愛知高等学校										B
都道府県 熊本県		市町村 山鹿市				会場 山鹿市総合体育館										国際 決勝					
前半	A	B	最終結果		A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7m追加 シュート	A	B						
7m得点/総数	0/0		チームタイムアウト						チームタイムアウト			B	7m得点/総数								
			1	2 後半	3				1	2 後半	3		1/1								
			1050						2236			2358									

No.	県立香川中央高等学校	G	W	2'	2'	D	DR	No.	愛知高等学校	G	W	2'	2'	D	DR
1	大道 滉平	1						1	加藤 将輝						
2	山下 夏輝	1						2	本間 元裕						
3	中村 華規	1						4	三谷 光翼	1					
4 C	田井 健志							5	小切間 慶大						
5	高尾 将吾	5						6	速水 遼馬						
6	植田 季貴							7	平田 泰士						
7	木太 隆雅	10						8	加藤 瞳真	1					
8	谷 貴文	5						9	水谷 倭	4					
9	三野 凌誠							10	松野尾 航生	1					
10	大須賀 麟汰郎	1						11	打越 悠真	1					
11	白井 祐登							12	大森 淳矢						
12	黒川 廉							13	高橋 哲汰	4					
13	柳生 永遠	2						20 C	森本 大貴	6					
14	小田 航平							21	小林 翔汰	3					
役員A	田中 潤							役員A	川瀬 秀一						
役員B	藤澤 光輝							役員B	奥村 卓巳						
役員C	金子 雄太郎							役員C	大橋 慶						
役員D								役員D							

A 田中 潤 チーム役員A署名 川瀬 秀一 B

レフェリー	安田 寛	永春 文義	<span style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">安田 寛 永春 文義</span>
TD	宮田 政克	稲津 憲二	<span style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">宮田 政克 稲津 憲二</span>
MO	島村 浩信		<span style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">島村 浩信</span>

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入



No. A

## ハンドボール

令和元年度全国高等学校総合体育大会  
高松宮記念杯第70回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

## 戦評

開催日	2019年 8月 9日 金曜
会場	山鹿市総合体育館
種別	男子
回戦	決勝戦

スコア	チーム名	総得点	前半	総得点	チーム名
	香川中央	26	14 — 8	21	愛知
後半					
	第1延長		第2延長		7MC
	—		—		—
	—		—		—

※第1延長・第2延長及び7MCの得点は総得点に加算してください。

戦評	前半	男子決勝は愛知県代表の愛知高校と香川県代表の香川中央高校の対戦となった。香川中央のスローオフで試合開始。香川中央は谷のロングシュートで先制する。対する愛知も森本のロングシュートで取り返す。その後も点を取り合い、主導権を奪い合う展開となる。香川中央1点リードで迎えた18分過ぎ、愛知の攻撃で同点になると思われたが、香川中央GK大道のファインセーブで愛知に得点を許さない。その後香川中央が高尾、柳生、木太らで3連取し4点差とすると、愛知は流れを止めようとタイムアウト。愛知はここで流れを掴むかに思われたが、香川中央の高いディフェンスの前に思うように得点できない。それに対し香川中央は中村、谷らで得点を伸ばし、14対8で前半を終了した。
	後半	後半に入ると、愛知にリズムが出て追い上げを許す。ここで愛知に流れが傾くかと思われたが、香川中央は7人攻撃を仕掛け、流れを簡単には渡さない。しかし、愛知も8分過ぎから3連取し、12分には1点差とする。14分過ぎには愛知森本のミドルシュートでついに同点に追いつく。その後1点を争う展開となり、香川中央高尾、木太らで得点を重ね、24分には4点差となる。ここで愛知はタイムアウトを取り流れを引き寄せようとするが、香川中央はGK大道が立て続けにファインセーブを見せ得点を許さない。愛知も水谷、打越らで追い上げを見せるも点差は縮まらず、26対21で香川中央が勝利し、25年ぶり2回目の優勝となった。

記入者	四宮 一郎
-----	-------